

大雨に伴う被害防止対策について

気象災害対策 R 5 - 6
令和 5 年 6 月 2 9 日
農林総合研究センター

I 気象の概況

週間予報（28日10：00発表）によれば、週末にかけて低気圧が北日本を通過し、大陸から黄海付近にのびた前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、北日本から東日本にかけての日本海側では1日にかけて大雨となる恐れがあります。

今回の大雨に加え、これまでの降雨や長雨の影響も懸念されますので、今後の気象情報に十分留意し、被害防止対策に万全を期してください。

II 被害防止対策

〈要旨〉

- 1 大雨に備えて、ほ場の排水路を点検・連結し、排水対策を講ずる。
- 2 冠・浸水した水田では稲体が軟弱化し、病害の発生が懸念されるので、退水後はほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。
- 3 園芸品目は、長時間の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいので、ほ場内の排水対策を徹底するとともに、大雨後は被害に応じて殺菌剤や液肥の葉面散布を行う。

〈詳細〉

1 水 稲

- (1) 冠・浸水したほ場では、できるだけ早くほ場内の排水に努める。
- (2) 河川からほ場や用排水路に土砂が流入した場合は、土砂を除去し、通水を確保する。
- (3) 冠水したほ場では、稲体が軟弱化し病害の発生が懸念されるので、退水後はほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。

2 大 豆

- (1) ほ場内の滞水は、生育遅延や根腐れのほか茎疫病の発生を助長するので、速やかな排水に努める。
- (2) 冠・浸水したほ場では、できるだけ早く溝の流入土砂の除去や溝の手直しを行い、ほ場内や排水溝の停滞水を排出する。
- (3) 排水後、葉の黄化が見られるほ場では、窒素成分で1kg/10aの追肥を施用するとともに、天候が回復し土壤水分が下がり次第、中耕培土を行う。

3 野菜・花き

野菜・花きは長時間の停滞水に弱く、根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良を生じやすい。また、収穫期のすいか、かぼちゃ、なす、白ねぎ、花き等は病害による品質低下などの障害が発生しやすいので、速やかに以下の対策を実施する。

〈施設栽培〉

- (1) 施設外周の明渠をやや深く掘り、雨水の流入を防止する。
- (2) 長雨により防除ができない場合は、必要に応じてくん煙剤を使用して病害のまん延を防止する。

〈露地栽培〉

- (1) ほ場周囲及びほ場内にも明渠を設置し、雨水が停滞しないよう排水を徹底する。
- (2) 冠・浸水したほ場では、根腐病、疫病、軟腐病等の被害が発生しやすくなるので早急に防除を実施する。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、農薬の使用基準の範囲内で洗い流すように防除する。
- (3) 被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などにより草勢の回復に努める。
- (4) すいか、かぼちゃ等では、降雨後の強日照による日焼け果の発生が懸念されるので、必ず日覆いを行う。

4 果 樹

- (1) 収穫期にあるハウスぶどう、果実肥大の最盛期を迎えるももやなし「幸水」等では、果実裂果の発生が懸念されるので以下の対策を実施する。
 - ① ハウスぶどう：ハウス谷間の排水とハウス内の換気を徹底する。
 - ② もも、なし「幸水」等：排水溝を整備し、ほ場内の排水を徹底する。なお、果実裂果が激しい場合は、裂果が終息するまで被害果の除去を控え裂果の拡大を防ぐ。
- (2) 落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底する。

5 畜 産

- (1) 畜舎への雨水の進入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- (2) 高湿度により畜舎環境が不快になる懸念があるため、家畜の観察を十分に行い、送風など適切な対応を実施する。